

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00241

研究課題名（和文）文学フリマ参加雑誌アーカイブ化による現代文芸同人誌研究基盤の構築と公開を目指して

研究課題名（英文）Aiming to build and publish a research base for modern literary doujinshi by archiving magazines participating in literary flea markets

研究代表者

谷村 順一（TANIMURA, Junichi）

日本大学・芸術学部・准教授

研究者番号：40552576

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：日本大学芸術学部文芸学科に寄贈された「文学フリマ金沢」5回分の見本誌434冊を資料とし、主に以下の2点について調査、検証を行った。文芸同人誌の検索システムに対する利活用ニーズ調査。文芸同人誌アーカイブシステムの構築。検索システムに対する利活用ニーズ調査では文芸同人誌アーカイブの構築およびウェブ上での文芸同人誌検索への期待が高いこと、およびその検索項目として文芸同人誌特有の事情を反映する必要性が明らかになった。これらを踏まえ、「持続可能性」に重点を置いた構築形態およびプラットフォームの採用を念頭にデジタルアーカイブプラットフォーム「Omeka」を用いてプロトタイプを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

検索システムに対する利活用ニーズ調査では、検索項目として「出店者（サークル名）」および「書名」、「著者名」、「作品名」といったニーズが高いことが明らかとなり文芸同人誌特有の事情を反映した検索システムの構築が不可欠であることが判明した。データベース構築の実作業においては奥付や目次から十分な書誌データを採取することが難しい資料もあり、見本誌現物から新たに目録をとる必要性も示された。また調査結果についてフェイスシート項目でクロス集計を行った結果「日常の中で文芸同人誌を探す機会があったかどうか」という設問は文芸同人誌を探す際に用いる手段で女性が男性よりも回答割合が高いことを示す項目があり性差が示された。

研究成果の概要（英文）：Using 434 sample magazines from the 5 editions of "Literature Flea Market Kanazawa" donated to the Department of Literature, Nihon University College of Art, we investigated and verified the following two points. Survey of utilization needs for literary doujinshi search system. Construction of literary doujinshi archive system. A survey of user needs for search systems revealed that there are high expectations for the construction of literary doujinshi archives and the search for literary doujinshi on the web, and that the search items need to reflect the unique circumstances of literary doujinshi. Ta. Based on these considerations, we built a prototype using the digital archive platform "Omeka" with an eye toward adopting a construction format and platform that emphasizes "sustainability."

研究分野：日本近現代文学

キーワード：同人誌 同人雑誌 文芸同人雑誌 文学フリマ 文フリ データベース 書誌検索 アーカイブ

## 1. 研究開始当初の背景

アニメ、マンガ、ゲームなどを題材とした「同人誌」は、現在クールジャパンを代表するメディアのひとつとなっているが、そもそも「同人誌」とは「文芸同人誌」がその起源である。作家研究において同人誌は作家の揺籃期の格好の資料となるはずだが、これまで体系的・網羅的に収集が行われていないため、検索用データベースが存在せず、文学研究の基礎資料として有効に利用されてこなかった。

## 2. 研究の目的

これまで同人誌は既存の作家研究において、その揺籃期の創作活動の資料として利用されてはきたが、国立国会図書館等による体系的収集が行われておらず、また同人の離合集散を繰り返すうち、その存在自体が忘れ去られてしまい、これまで文学的資料として十分な活用が行われてきたとは言いがたい。しかし、同人誌は文学を集団で楽しむという日本独特の、世界的に見ても希少なメディアであり、創作物の発表方法としてのみならず、その創作過程にも深く影響を及ぼしている。そして日本近現代文学において、無名の作家が中央文壇にデビューするためのステップとしての機能も有してきたこともあり、日本近現代文学の作家作品研究の資料価値は計り知れないものであると考えられる。

本研究では日本大学芸術学部文芸学科に寄贈された文芸同人雑誌即売会『文学フリマ』の第3回から現在に至るまでの約10,000冊以上におよぶ見本誌を用いて、多様な同人誌のデータベースをいかに構築するかの考察を行いながら、2015年から2019年に開催された「文学フリマ金沢」5回分の見本誌434冊の検索システムのプロトタイプ構築を行い、今後の体系的・網羅的なデータベース検索システムの構築への足がかりとする。

## 3. 研究の方法

『文学フリマ』代表望月倫彦氏より「第3回文学フリマ」から日本大学芸術学部文芸学科が継続的に見本誌の寄贈を受けているが、本研究では寄贈されたこれらの同人誌を用いて、多様性溢れる同人誌のデータベース化をその検索項目の検討を含め、どのように行うかについての検討、書誌データだけでなく装丁を含めた意匠のデジタル化、保存や閲覧方法、といった点について関係者へのヒアリングなどを含めて検討し、2015年から2019年に開催された「文学フリマ金沢」5回分の見本誌434冊の同人誌検索システムのプロトタイプの構築を行うことで、文学研究資料の基礎資料として同人誌を有効活用するための網羅的な検索システム構築への足がかりとし、同時に発行地、同人数、掲載作品のジャンルの精査などによって発行動向といった同人誌そのものの基礎的研究を行うための基礎資料整備を目指した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 文芸同人誌のアーカイブに適したデータモデルの検討結果と今後の課題

同人誌の書誌記述についての先行研究、および文芸同人雑誌即売会『文学フリマ』の第3回から現在に至るまでの約10,000冊以上におよぶ見本誌に基づき、文芸同人誌に適したデータモデルについて検討した。

その結果として、同人誌を対象とする既存のメタデータモデルは、同人誌固有の性質である「委託販売関係」を扱えないという課題を発見した。委託販売とは、ある同人サークルが他のサークルに販売を委託し、販売スペースに陳列してもらうことを指す用語である。「文学フリマ」では、運営サイドが公式に委託販売を受け付けるほかに、同人サークル間で非公式に委託販売を行うことも認められている。しかし、こうした委託販売物は出店者カタログやウェブサイトには掲載されていない場合がある。そのため、出店者カタログのみを情報ソースとすることを前提としたメタデータである場合、現物に対応するメタデータの欠損や齟齬をもたらすおそれがある。こうした課題を解決するには、同人創作物の「発行者」と「販売者」を区別し、それぞれについてメタデータを記述する必要がある。

##### (2) 文芸同人誌の検索システムに対する利活用ニーズ調査結果

文芸同人誌のアーカイブ構築に対する事前調査として、検索ニーズに関するアンケートを実施した。本調査は、文学フリマの出店者または来場者を対象とし、オンラインフォームを使用したウェブアンケートとして実施した。出店検討者や来場予定者が発見しやすいよう、文学フリマ事務局の研究協力を得て、文学フリマ公式サイトトップページにアンケートフォームへのリンクを設置した。調査期間は、2019年5月4日(土)から7月21日(日)とし、この期間は、3回の文学フリマ開催日を含むため、直近の経験を踏まえた回答を取得することを狙いとした。質問項目としては、年齢、性別といった一般的な属性項目のほか、文学フリマへの関わり方、関心ジャンルといった、文学フリマ固有の属性も回答に影響を与え得ると仮定し、フェイスシート項目に含めた。その上で、これまでの日常の中での文芸同人誌を探す機会の有無および探し方、データベースへ期待する検索項目等のニーズを質問した。

調査の結果、文芸同人誌アーカイブの構築およびウェブ上での文芸同人誌検索への期待が高いこと、およびその検索項目として文芸同人誌特有の事情を反映する必要性が明らかになった。特に、検索時に利用できる便利と考える検索項目としては、「出店者(サークル名)」および「書名」と回答した方が高い割合を占めたが、それと同程度に「著者名」「作品名」に対するニーズも高いことが明らかになった。文学フリマの場合、カタログの記載内容はサークルによる自主申告となるため、サークル名しか記載されていない場合が多く、そのサークルが販売した作品名や、その作品に執筆・投稿した著者たちの名前は記録されていない場合が多い。よって、このニーズを満たすためには、見本誌現物から新たに目録をとる必要性が示された。一方で、調査結果をフェイスシート項目でクロス集計を行うと、性別による差が示された。日常の中で文芸同人誌を探

す機会があったかどうかという質問では、女性の方が男性よりも「ある」と答えた割合が高かった。また、文芸同人誌を探す際に用いる探し方についても、女性の方が男性よりも高い割合で「X（旧 Twitter）や Facebook 等の SNS で探す」を選択しており、探し方にも差異がある可能性が示唆される結果となった。

### (3) 文芸同人誌アーカイブシステムの構築と今後の課題

前述の調査結果を踏まえ、文学フリマ事務局がこれまで収集した見本誌のうち 2015 年から 2019 年に開催された「文学フリマ金沢」5 回分の見本誌 434 冊のデジタル化と検索用アーカイブシステムの研究開発を行った。

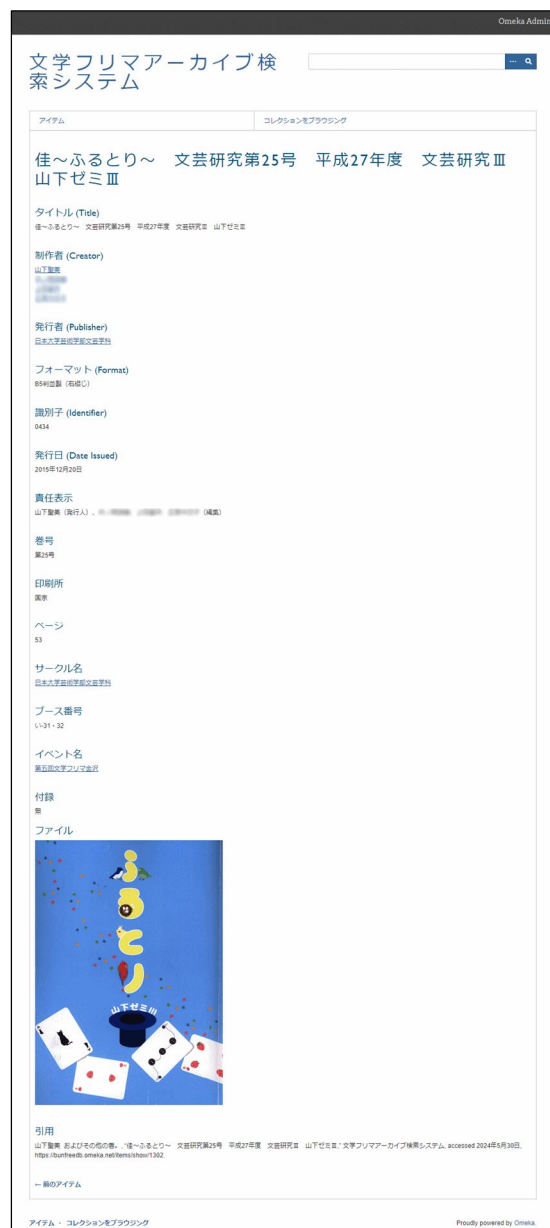
本研究は、応募時の研究計画調書の時点から、国内唯一の『現代文芸同人誌アーカイブ』として広く提供できる形態で構築する予定と記載しており、当初から社会還元を視野に含めた計画となっている。この目標に基づき、アーカイブシステムの構築形態およびプラットフォームの選定を行った。特に、先行する小規模アーカイブ構築事例の文献調査を通し、複数のアーカイブが運営体制やシステムの維持更新に困難が生じやすいという課題が明らかになっていたことから、「持続可能性」に重点を置いた構築形態およびプラットフォームの採用を目指した。

これらの前提に基づき、本研究では国内外のデジタルアーカイブのプラットフォームシステムを技術調査し、機能要件と運用コスト等を比較検討した。最終的には、国際的にオープンソースソフトウェアとして開発されているデジタルアーカイブプラットフォーム「Omeka」を採用することとした。Omeka は、メタデータの項目の独自拡張が可能な上、国際規格や標準プロトコルによる検索およびデータの入出力が可能となっており、本研究で要する要件に最も適すると判断された。そして、本研究ではアーカイブシステムの試作段階として、クラウドサービス「Omeka.net」上でプロトタイプを構築した。構築に際し、見本誌の表紙等画像およびメタデータを大量に一括登録できるようインポート用スクリプトを開発し、取り込み実験を行った。その結果、文芸同人誌はこのような形での電子的流通がもともと想定されていない媒体のため、現物に記載された作品名に特殊文字が使用されることも多く、文字コードによっては文字化け等が発生しやすい課題も抽出された。出版元サークルが指定した作品名等を検索可能化に際してどの程度再現性を保証するか、今後の課題として残された。

本研究では最後に、当該アーカイブの公開可能性について考察を行った。技術的には対外的に一般公開可能なアーカイブシステムを構築できたものの、これまでの調査の結果として、一部の出版者は恒久的な一般公開を望まない事例もあるという懸念が示されている。実際に、本研究でデジタル化を行った見本誌の中には、大学のゼミ名や個人名が記された形で発行されているものもあり、個人の所属を特定可能な情報が含まれていることも確認されている。文学フリマ事務局の Web サイト (<https://bunfree.net/entry/samples/>) に「提出された見本誌のうち「新刊」は開催終了後、日本大学芸術学部文芸学科資料室に収蔵されます。そのほか、文学フリマアライアンス加盟事務局・日本大学・もしくはそれらが許諾した組織が企画するイベント・展示会などで

展示や閲覧に供される場合があります。また、文学フリマアライアンス加盟事務局・日本大学の  
 収蔵図書として公開・貸与される場合があります。」と明記されているため、アーカイブ公開に  
 あたっての権利上の問題は生じないが、文芸同人誌の創作コミュニティを維持するためには、事  
 後的な心情の変化に対しても一定の配慮が必要と予見された。そこで本研究としては、クラウド  
 サービス上と同等に動作する環境を可搬な小型 PC 上に構築できるようにし、物理的な見本誌を  
 所蔵している資料室内でのみ検索可能なよう、当分の間はローカル環境での運用に留めること  
 が望ましいという結論に至った。具体的には、コンテナ型仮想化環境である Docker 上にアーカ  
 イブシステムを移植し、成果の一式をパッケージ化することで、上記形態での運用を円滑に開始  
 できる体制を整えた。

## 検索結果画面



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 常川真央
2. 発表標題 文芸同人誌データベース化を目指した利活用ニーズ調査 -文学フリマを事例として-
3. 学会等名 第24回情報知識学フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 常川真央
2. 発表標題 文芸同人誌アーカイブ構築を目指したデータモデルについての検討
3. 学会等名 第23回情報知識学フォーラム ポスターセッション
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小野 永貴  (ONO Haruki)  (10592868)	筑波大学・図書館情報メディア系・助教   (12102)	
研究分担者	常川 真央  (TSUNEKAWA Mao)  (20592869)	中央大学・文学部・助教   (32641)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	岡野 裕行  (OKANO Hiroyuki)  (30531280)	皇學館大学・文学部・准教授     (34101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関